

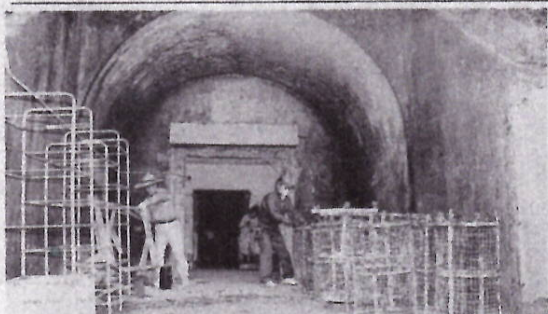
旧陸軍使用の「玉の火薬庫」

11日から見学可能に

関ヶ原

関ヶ原観光協会は十日から、旧日本陸軍が使っていた関ヶ原町の「玉の火薬庫」の一部を現地見学できるようにする。見学できるのは関ヶ原鐘乳洞付近の洞窟型火薬庫五カ所。一方所は内部を午前九時から午後五時までライトアップし、残りは外から見られる。解説や写真、地図パネルも並べる方針。

玉の火薬庫は大正初期、点在する小高い丘



関ヶ原観光協会が11日から現地見学を可能にする「玉の火薬庫」=いずれも関ヶ原町玉



洞窟型火薬庫内を清掃する観光協会員ら

に建設され、終戦まで十カ所近い火薬庫の多くが三十年間使われた。五カ所が洞窟型または半洞

窟型で、周囲六*にわたたり、面積は二百七十*で規模は東洋一とされる。戦後は長らく倉庫になっていたが、協会が戦後七十周年を記念して整備してい

る。四日は協会員ら四十人が周辺でごみ拾いや草刈りを実施。浅野正会長は「皆さんの努力で見せられる状態になってきた。ここであった歴史事実を見てもらえたら」と話した。

町歴史民俗資料館では現在、玉の火薬庫を題材にした夏の企画展「戦後七十年の平和遺産」が開かれている(月曜休館だが、夏休み期間中は無休)。現地見学は☎協会110584(43)1600

(加藤拓)